

学校だより SEIDO

～ 一人を大事に 一秒を大事に ～

令和8年1月7日14号
芦屋市立精道中学校

今年もよろしく願いいたします

新しい年を迎えました。お喜び申し上げます。

2026年は60年に一度巡ってくる「丙午（ひのえうま）」の年で、馬の持つ「力強さ」「前進」「成功」という印象から、物事は順調に進み縁起が良いとされています。また丙と午はどちらも火を表すとされ、新しい挑戦に最適な一年となりそうです。

2学期の最後に「自分磨き」を生徒たちと話題にしました。精中生は一人ひとりが、たくさんの可能性を秘めています。今年も「自分磨き」から始まる様々な挑戦を期待し、応援したいと思います。

新年の気持ちを忘れず、教職員一同「一人を大事に 一秒を大事に」しながら教育活動に取り組んでまいります。今年もどうぞよろしく願いいたします。



【iPad 更新のための回収について】

1・2年生については1月19日までにiPadを更新のため回収をさせていただきます。備品等のチェックや充電のお願いなど、後日詳しいプリントを配布させていただきます。ご協力お願いいたします。

3年生につきましては、卒業までの期間が短いため更新は行わず、2月にiPad返却回収を予定しております。よろしくお願いいたします。

【私たちの精道中学校をさらに良くするための調査：学校評価結果】

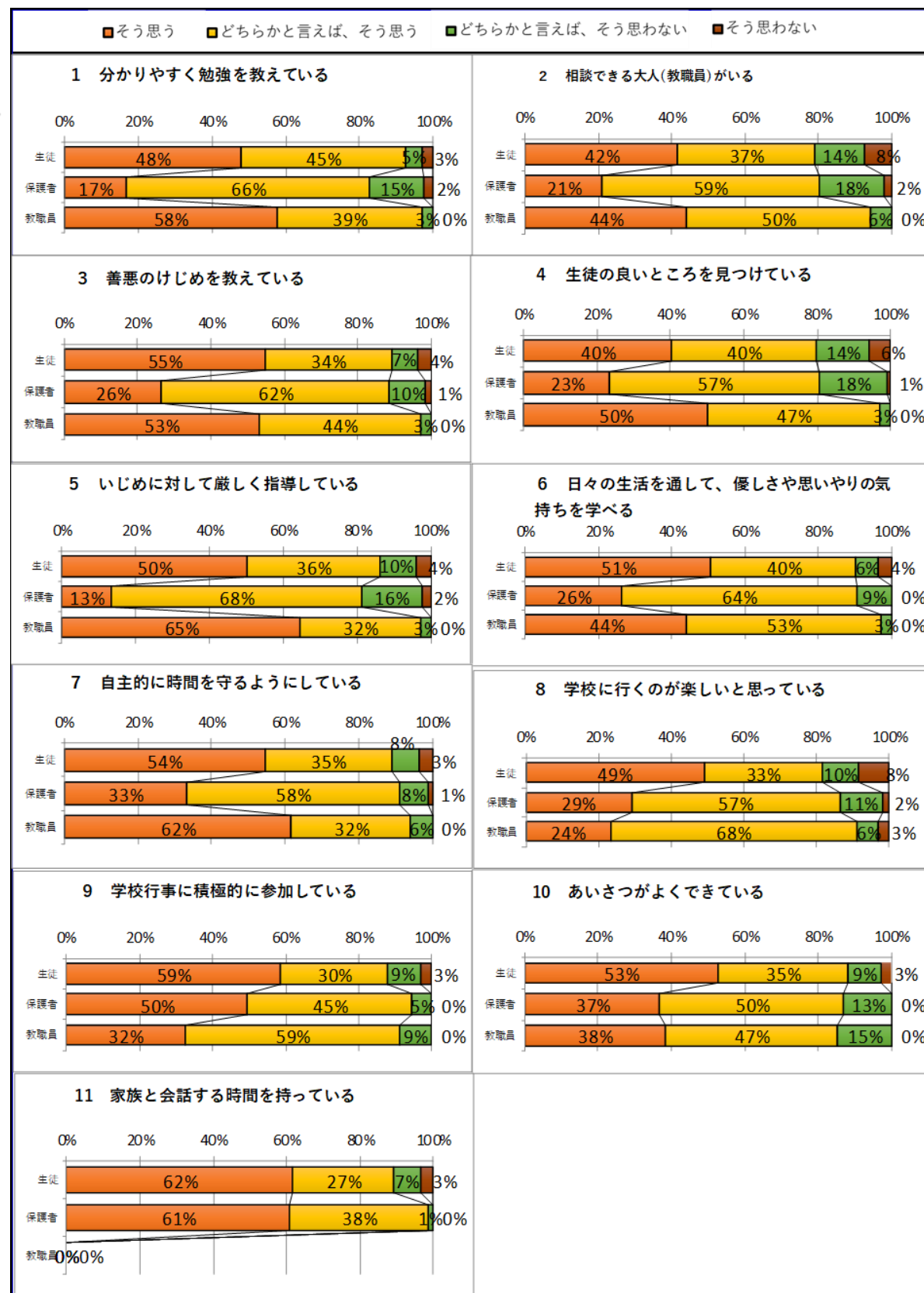
昨年12月にご協力いただきました学校評価の結果をお知らせいたします。調査へのご協力ありがとうございました。

調査は、生徒・保護者・教職員について同じ項目についておこないました。（11を除く）

生徒への質問は中学生にわかりやすい表現にしましたが、それでも大人との見解の違いや受け取り方に相違が見られたものがありました。相違等については真摯に受け止め、今後に活かしていけるよう努めます。生徒の目線で考えられる学校経営をめざすためにも、ご家庭との連携も引き続きよろしくお願いいたします。

裏面には学校運営協議会のみなさまからのご意見を掲載させていただいております。

*グラフは生徒（上段）・保護者（中段）・教職員（下段）で示しております。



1. 今年度、気づかれたこと

①生徒について

- ・天真爛漫で可愛いが「かまってちゃん」が増えているという印象。
- ・敬語や丁寧語が使えない生徒も多い。
- ・「しんどい」思いを抱えている生徒が増えていることも気がかり。
- ・不登校生徒の多さに困惑します。心身的不調なお子さんだけではないように感じてしまいます。心の弱さや家族での向き合い方、考え方、それぞれあると思うので何とも言えませんが、大人になったときが心配です。
- ・全国学力学習調査結果からですが、自尊感情が高く安心しましたが、将来の夢をもっている割合が少ないのは、自分には良いところがあるが、自信がもてないのかなと想像します。選択肢が多い世の中、自分を信じていろんな経験をしてほしいです。
- ・学校内の様子は参観日等しか分かりませんが、全学年・クラスとも落ち着きがあるように思います。登下校の時の様子も明るく元気に感じますが、不登校生徒の状況を聞くと、一様の状況ではないようで、個々のアプローチと学校現場への教育委員会からの支援の必要性を感じます。

②教職員について

- ・全教員の努力がうかがえますが、教員の多忙化等が社会的にも指摘されています。業務改善のとりくみもありますが、教員の側からの改善策等の発信がなされ、活かされているのか気になります。
- ・怒らない、寄り添う、見守る、提案する・・・頭が下がります。
- ・先生方は生徒と良い関係を築こうと努力されていると感じる。
- ・以前、(来校時に)挨拶をされなかった先生も挨拶をしてくださるようになり、良かった。
- ・相談室の Peace サポーターの先生がとても温かく熱心に生徒たちと関わってくださり、安心できる反面、先生お一人では相当大変なのでは？と感じる。

2. 学校運営協議会の今年度のテーマ「地域交流」「かかわりの力」について

- ・地域との交流が大切なことと考えてくださっていることが良く伝わる。
- ・精中応援隊としても地域のボランティアさんたちだけでなく、高校生たちの活動への参加によりとても良い交流ができていていると感じる。高校の先生方からも大変喜んでいただいている。
- ・「Slimple プログラム(Say Do タイム)」はどのような実践が行われているのか、詳しく知りたい。
- ・保護者をどのように巻き込み、かかわりをもってもらうか。このような時代に役員をしてくださる保護者の方々には頭が下がります。
- ・(昨年度の)夏休みに(地域の)防災訓練を(精道中学校で)されていると思います。一部の方しか情報がまわっていないと思います。保護者にももっと伝われば良いと感じます。
- ・トライやる・ウィークは定着して地域側も周知できているが、学校に地域の人が行っていいのか、そんなイベントがあるのか分からない人が多い。特にコロナ後、学校は遠くなった感じがある。

- ・小学校とのかかわりをもう少し増やしてほしい。秋のオープンスクールのご案内など小学校の保護者にもっと伝われば良いと感じます。今後入学してこられる子ども、保護者に精中をもっと知ってもらいたい。
- ・学校側の種々のアプローチは分かりますが、地域側から見られる傾向は小・中を通じて地域行事等への参加は少数です。(長く続く課題です)
- ・生徒の放課後や休業日など過ごし方がどうなっているのか思うところです。
- ・百人一首大会は今もありますか？チーム戦で切磋琢磨して仲間と話し、練習、作戦を考える経験は楽しそうでした。
- ・不登校等の困難案件に学校・教育委員会で積極的にとりくまれ成果点などがあると報告を受けています。しかし、不登校生徒の増加と占める割合が高くなっていることなど、施設環境整備の必要性があり、教育委員会、市長部局との連携が求められます。
- ・不登校生徒が増加傾向にあります。不登校に及ぶ原因・要因について、学校・教育委員会・保護者・生徒などの状況把握に努め、学びの場・居場所づくりなどに生かしていくこと、学校の魅力発信を高めることが必要ではないか。
- ・今後の学校運営に活かせるテーマとして提案です。
 - ①相談室登校の生徒たちへのかかわりについて
 - ②地域防災・避難訓練

3. その他

- ・先生方の負担軽減、保護者の PTA 加入減少、地域ボランティアのキャパシティ不足等、これらの課題がある中でいかに生徒たちを支え、中学校の3年間だけでなく地域や社会の宝として子どもたちを育てていけるか、三者(教員・保護者・地域)が連携する意味は大変大きいと思う。今後の学校運営協議会でもますます活発に意見交換できると良い。
- ・講習会を保護者も参加できる形式にして頂けたら…もっと保護者に知ってもらいたい。
- ・イベント等にはたくさんの保護者も来られます。学校に来る機会が増えればと思います。学年レクを以前総合運動公園等でされていました。そのような子どものがんばりを見れる機会を増やして頂けたらと思います。
- ・中学生になると保護者が学校生活に関心が低いと感じます。この年齢は思春期もあり親との関わりを拒むお子さんも多いですが、もっと親から接する機会を作ることも大切だと思います。



学校運営協議会は、芦屋市の運営マニュアルに則り、学期に一度開催しています。
今年度の精道中運営協議会のみなさま：自治会・防災代表、弁護士、こども園・幼稚園代表、精中校区コミスク代表、主任児童民生委員、
精中応援隊コーディネーター、育友会長、元精中職員
(年度ごとに依頼をし、学校運営を支えていただいております。)